

シラバスの見方

※この PDF ファイルには目次(しおり)がついています。スマートフォンを使用中の方は画面上の設定等から目次を呼び出してご利用ください。

授業科目名	①		
実務経験講師	②	実務経験	③
開講年度	④ 年度	学 期	⑥
年 次	⑤ 年次	授業回数	⑦ 回
単 位 数	単位	単位時間数	時間
授業科目の概要	⑧		
授業科目の到達目標	⑨		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1			
2			
3			
4			
5			
6	⑩		
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用テキスト	⑪
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	
その他 受講生への要望等	

① 授業科目名

② 実務経験講師

講師に担当する科目に関係する実務経験がある場合、「○」がついています。

実務経験とは・・・資格をもっているだけではなく、実際の施設等で資格を活かして働いた経験があるということ。

※一部を除き、違う学校で同様の科目を教えている等の教員経験は実務経験に含まれません。

③実務経験

担当講師の実務経験内容を簡単に記してあります。

④開講年度

⑤年次

授業を受ける学年です。

⑥学期

前期・・・4月～9月

後期・・・10月～3月

通年（全期）・・・1年間を通して、もしくは前期～後期にかかるどこかの期間で

⑦授業回数

⑧授業科目の概要

授業内容の大まかな説明です。

⑨授業科目の到達目標

授業が修了した時に到達すべき学修の目標です。

⑩授業スケジュールと内容

内容・・・1回の授業がどのような内容で構成されているか

授業方法・・・講義、演習、実習など

課題/小テスト・・・その授業の回に課題や小テストが課されている場合は記載されます。予習の内容が書かれている場合もあります。

⑪使用テキスト

授業で使用するテキストの情報です。プリント等オリジナル教材を使用する場合もあります。

授業科目名	健康科学		
実務経験講師	○	実務経験	管理栄養士
開 講 年 度	2022 年度	学 期	後期
年 次	4 年次	授 業 回 数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	健康寿命を延ばすための運動や食事、睡眠についての知識を養う科目です。		
授業科目の到達目標	自分自身の健康維持・増進のための積極的な取り組みが習得できる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	健康の意義 健康施策	講義	
2	健康な食生活の実践	講義	
3	食生活の見直し	講義	
4	メタボリックシンドローム	講義	
5	健康の基礎知識 1 グループワーク課題提示	講義・グループワーク	
6	健康の基礎知識 2	講義・グループワーク	
7	健康の基礎知識 3	講義・グループワーク	
8	歯の健康	講義・グループワーク	
9	フレイル 1	講義・グループワーク	
10	フレイル 2	講義・グループワーク	
11	フレイル 3	講義・グループワーク	
12	健康維持・増進のための運動	講義・グループワーク	
13	健康維持・増進のための食事	講義・グループワーク	
14	健康維持・増進のための休養	講義・グループワーク	
15	グループワーク発表、総評、振り返り	発表	

使用テキスト	「フレイル」超高齢化社会における重要課題と予防戦略 医歯薬出版
参考書・資料 等	「社会・環境と食事」 第一出版
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	レポート課題（30%）・グループワーク貢献度（30%）・発表（40%） 医療従事者として健康を維持・増進するための実践努力の成果（自己評価）も含め、評価します。 レポート課題とともにグループワークへの貢献度についても評価します。
その他 受講生への要望等	

授業科目名	地域保健福祉論		
実務経験講師	○	実務経験	理学療法士 他
開講年度	2022 年度	学 期	後期
年 次	4 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	①地域リハビリテーションにおける歴史・制度・システムを理解する。 ②地域包括ケアに向けたこれからの医療や介護サービスの変化・現状を知る。 ③リハビリ専門職に係わる業務について知り、それを役立てるシステム等について考え・学ぶ。		
授業科目の到達目標	① 地域包括ケアとリハビリテーションについてシステムを理解する。 ② 精神障がい者の地域生活支援について理解する。 ③ 障がい者スポーツを学び実際に体験する。 ④ 在宅分野での PT・OT の実際について学ぶ。 ⑤ 自分のなりたい PT・OT 像を踏まえグループワークができ、発表ができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題	開講日
1	地域包括ケアとリハビリテーション 1	講義		10/13
2	地域包括ケアとリハビリテーション 2	講義		10/13
3	地域包括ケアとリハビリテーション 3	講義		10/20
4	地域包括ケアとリハビリテーション 4	講義		10/20
5	地域包括ケアとリハビリテーション 5	講義		10/27
6	地域包括ケアとリハビリテーション 6	講義		10/27
7	在宅分野での PT・OT の実際	講義		11/25
8	在宅分野での PT・OT の実際	講義		11/25
9	地域包括ケアにおける PT・OT の役割 ～市町村の立場から～	講義		11/10
10	精神障がい者の地域生活支援	講義		
11	地域を知り、関係性を繋ぐ支援を考える	講義・演習		
12	障がい者スポーツ支援活動について	講義・演習		
13	障がい者スポーツ支援活動について	講義・演習		
14	地域で活躍する専門職の役割 ～多職種連携活動を通じて～	演習		
15	回復と成長につなぐコミュニケーション	講義・演習		

使用テキスト	なし
参考書・資料 等	1) 地域リハビリテーション論 太田仁史著 三輪書店

	2) 地域リハビリテーション学テキスト 和田多穂監修 南江堂 3) 訪問リハビリテーション実践テキスト 全国訪問リハビリテーション研究会編
この授業科目を前提とする主な科目	精神医学 評価実習 臨床実習
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	1) レポート 2) 出席
その他 受講生への要望等	

授業科目名	臨床実習セミナー		
実務経験講師	○	実務経験	理学療法士
開講年度	2021 年度	学 期	前期
年 次	4 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	臨床実習で実施した「ニーズの把握」や「目標設定」、それを可能にするための「治療プログラム」、総合的な「統合と解釈」を見直し、加筆修正を加えるための授業である。また、他の学生の症例を模擬患者として捉え、様々な疾患に対する理学療法の進め方を考える機会とする		
授業科目の到達目標	① 臨床実習時の担当症例に関して、要点をまとめ発表することができる。 ② 他者からの意見を尊重し、内容の修正ができる。 ③ 他の学生の症例に関して、積極的に討論できる。 ④ 様々な疾患に対する運動療法などの治療プログラムを立案できる。 ⑤ 実施した治療プログラムについて結果を踏まえて考察できる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	臨床実習Ⅰの振り返り	講義	
2-13	症例報告ならびに検討会	発表と質疑応答	
14	臨床実習Ⅱの振り返り	講義	
15	まとめ	講義	

使用テキスト	特になし
参考書・資料 等	① 嶋田 智明 編、「ケースで学ぶ 理学療法臨床思考」文光堂
この授業科目の前提となる主な科目	①「理学療法評価学Ⅰ～Ⅳ」②「理学療法評価学実習Ⅰ・Ⅱ」 ③「理学療法症例研究」④「臨床運動学」⑤「日常生活活動学」 ⑥「運動療法学Ⅰ～Ⅳ」⑦「運動療法学実習Ⅰ・Ⅱ」
この授業科目から発展する主な科目	①「卒業研究」②「理学療法総論」
成績評価の方法	① 提出したレジュメの内容 ② 発表ならびに質疑応答の内容
その他 受講生への要望等	① 教員からの一方的なレクチャーではなく、受講生同士の意見交換をもとにした症例検討会を望みます。つきましては、積極的な参加を心がけて下さい。

授業科目名	栄養学		
実務経験講師	○	実務経験	管理栄養士
開 講 年 度	2022 年度	学 期	後期
年 次	4 年次	授 業 回 数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30
授業科目の概要	①栄養素とその働きについて基礎知識を学ぶ。 ②リハビリテーション栄養について、症例検討を通して理解を深める。		
授業科目の到達目標	①自分自身の健康維持・増進に反映できる食生活について理解し、対象者の健康状態に合わせたワンポイントアドバイスができるようになることを目標とする。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	ガイダンス 管理栄養士とは？	講義	
2	栄養とは？ 栄養素について	講義	
3,4	ライフステージにおける栄養 1 症例発表	講義・グループワーク	
5	リハビリテーション栄養 1	講義・グループワーク	
6	栄養素の働き 1	講義・グループワーク	
7	栄養素の働き 2	講義・グループワーク	
8	栄養素の働き 3	講義・グループワーク	
9	リハビリテーション栄養ケアマネジメント	講義・グループワーク	
10	リハビリテーション栄養ケアプラン	講義・グループワーク	
11	リハビリテーション計画立案 1	講義・グループワーク	
12	リハビリテーション計画立案 2	講義・グループワーク	
13	リハビリテーション計画立案 3	講義・グループワーク	
14	主な疾患のリハビリテーション栄養	講義・グループワーク	
15	リハビリテーション計画発表 総評	発表	

使用テキスト	PT・OT・ST のためのリハビリテーション栄養第 2 版 栄養ケアがリハを変える 医歯薬出版
参考書・資料 等	臨床栄養 メディカ出版
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	レポート課題 (30%)・グループ発表 (50%)・グループワーク貢献度 (20%) 臨地実習のときに出会った患者様一人ひとりを思い出し、それぞれの患者様にあった具体的な支援策を立案できるかを評価します。
その他 受講生への要望等	リハビリテーション計画立案を通して、在宅介護サービス利用者への理解を深めて欲しいです。 授業内容の変更の可能性があります。ご理解ください。

授業科目名	理学療法総論		
実務経験講師	○	実務経験	理学療法士
開講年度	2022年度	学 期	後期
年 次	4年次	授 業 回 数	60回
単 位 数	8単位	単位時間数	120時間
授業科目の概要	4年間の総まとめとして教科別に国家試験の解説を作成し発表をする。また小テストにて到達度を確認する。業者の模擬試験や校内の模擬試験を行う。また国家試験対策の講義を行う。		
授業科目の到達目標	①教科別に解説を作成し、発表することができる。 ②教科別での小テストを合格できる。 ③理学療法士国家試験をふまえて、これまで修得した知識を統合し再確認することができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1・2	模擬試験	模擬試験	
3・4	解剖・生理・運動学		
5・6	解剖・生理・運動学		
7・8	解剖・生理・運動学		
9・10	解剖・生理・運動学		
11・12	解剖・生理・運動学		
13・14	解剖・生理・運動学		
15・16	模擬試験（医歯薬出版Ⅰ）	模擬試験	
17・18	臨床医学		
19・20	臨床医学		
21・22	臨床医学		
23・24	臨床医学		
25・26	臨床医学		
27・28	臨床医学		
29・30	臨床医学		
31・32	模擬試験（医歯薬出版Ⅱ）	模擬試験	
33・34	PT 専門		
35・36	PT 専門		
37・38	PT 専門		
39・40	PT 専門		
41・42	PT 専門		
43・44	PT 専門		
45・46	計算問題解説	講義	
47・48	脊髄損傷解説	講義	
49・50	MMT解説	講義	
51・52	臨床心理学・精神医学解説	講義	
53・54	運動学習解説	講義	
55・56	義肢装具学解説	講義	

57・58	発達・小児解説 PT	講義	
59・60	定期試験		

使用テキスト	クエスチョン・バンク PT・OT 国家試験問題解説 2023 共通問題 専門問題 メディックメディア
参考書・資料 等	PT・OT 国家試験 必修ポイント 専門基礎分野基礎医学・臨床医学・基礎 PT 学 障害別 PT 治療学 医歯薬出版株式会社
この授業科目の前提となる主な科目	4 年前期までの履修科目
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	定期試験、中間試験その他の筆記試験、出席及び授業態度
その他 受講生への要望等	予定は変更になりうるので、その都度連絡する。

授業科目名	卒業研究		
実務経験講師	○	実務経験	理学療法士
開講年度	2021 年度	学 期	後期
年 次	4 年次	授業回数	60 回
単 位 数	8 単位	単位時間数	120 時間
授業科目の概要	臨床実習での経験を通じて生じた「クリニカルクエスト」に対して、詳細な文献レビューやフィールドワークを基に、発展させた意見を述べる。根拠に基づく論理的思考を軸とした文章表現や論述を、表現と指導を通じて養う。		
授業科目の到達目標	① 明確なクリニカルクエストが提示できる。 ② 必要な情報収集が積極的、発展的にできる。 ③ 根拠を基にした情報解釈・分析ができる。 ④ 規定に基づく報告書作成と口頭発表が適切にできる。 ⑤ 指導担当教員と密な情報交換ができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1-2	卒業研究作成のオリエンテーション	講義	卒業研究計画書の作成
3-24	個別での研究、担当教員の個別指導	個別指導	
25-26	中間報告会	発表	
27-58	個別での研究、担当教員の個別指導	個別指導	
59-60	卒業研究発表会	発表	

使用テキスト	なし
参考書・資料 等	① 卒業研究のしおり
この授業科目の前提となる主な科目	① 「臨床実習」
この授業科目から発展する主な科目	なし
成績評価の方法	① 研究進行における認知・運動スキルの量と質 ② 発表のルーブリック評価
その他 受講生への要望等	① 4年間の学習の集大成として、能動的な研究姿勢で臨みましょう。授業としての研究ではなくあなたにとっての「クリニカルクエスト」を懸命に見つけてください。卒後の理学療法士としての継続的な学習につながる経験となりますように。